

高齢者交通問題に関連する交流会報告



警視庁 川嶋警視



4つのグループに分かれディスカッション



トヨタ自動車 伊藤氏

9月6日(水)、明治安田生命丸の内本社会議室において、高齢者対応交流会「高齢者交通問題に関連する交流会」が、開催された。講師に、警視庁交通総務課交通安全担当管理官 川嶋泰雄警視、トヨタ自動車(株)お客様関連部 伊藤真一主幹を招き、ACAPからの参加者は、村井理事長、齊木専務理事、交流活動委員、正会員・個人会員の総勢27名が参加した。

東交流活動委員(積水化学工業)の司会進行のもと、村井理事長の「2050年には、4に1人が高齢者になる。高齢交通問題は社会でも多くの事象が取り上げられており、改めて学ぶことは顧客対応にとっても重要。」との挨拶で開会し、「高齢者を取り巻く交通情勢と自動車運転支援機能について」をテーマに、2つの講演と質疑応答、グループディスカッションが行われた。

講演1は、警視庁交通総務課交通安全管理官 川嶋泰雄警視より「高齢者を取り巻く交通情勢」と題して交通事故の推移、高齢者の交通事故発生状況、交通安全啓発活動、事故防止対策、高齢者の運転対策等具体的に紹介していただいた。交通死亡事故の4割が高齢者であり、事故防止について、高齢者に、特性である「身体機能の低下」を理解してもらうと同時に、各種啓発活動により、交通ルールの遵守、無理のない行動、反射材用品の活用を促すほか、ゆとりシグナルの設置等、高齢者の運転対策については、高齢者講習、自主的な免許返納や、サポートカー限定免許制度など最新の情報を含めた説明があった。

講演2は、トヨタ自動車(株)お客様関連部販売店室 伊藤真一主幹より、「車両安全への取り組み」と題して、①高齢運転者の交通事故の状況②車両安全への取り組み③交通安全意識向上に向けた取り組みについて、動画を交えて講演をしていただいた。予防安全として車両に先行車や歩行者との衝突回避支援、車線逸脱の警告、追従ドライブ支援、交通規制見落とし時の警告などの機能、高度運転支援として入出庫支援やペダルの踏み間違え時の加速抑制などの機能を車両に搭載して高齢者の事故予防に支援していると説明していただいた。

その後、全体での活発な質疑応答のあと、4グループに分かれてのグループディスカッションが行われた。講師2名が各グループを回り質問や意見について適確に回答をしていただき、有意義なディスカッションとなった。

最後に、齊木専務理事より、「高齢者の交通問題は顧客対応に直結しないものの、本日の途切れることのない活発な質問に直面し、その関心の高さに驚くとともに、この問題が顧客との対応において活用する場面が少なからずあるのではないかと考えさせられた。特に自転車でのトラブルについて関心が高いことを改めて感じた。」と結びの挨拶があり、閉会となった。

高木秀敏(交流活動委員会/個人会員)